

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503817		
法人名	有限会社ウェル・ビーイング		
事業所名	とらいあんぐる太陽		
所在地	札幌市白石区菊水元町5条2丁目2番18号		
自己評価作成日	令和6年10月25日	評価結果市町村受理日	令和6年12月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyoCd=0170503817-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 全職員が基本理念とケア理念を共有している。 入居者様一人ひとりのできることを大切に、個別ケアの提供を心掛けている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年11月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>南7条米里線に面し、環状通と交差する信号に近く、公園や保育園、スーパーマーケット、薬局、飲食店、ガソリンスタンド等がある利便性の良い場所のマンション1階に9名が暮らす事業所である。暖かな季節は周辺の散歩や運動会の見学に出かけ、事業所前のベンチに腰掛けて外気浴やシャボン玉などで楽しめる機会を作っている。玄関の壁に法人の児童デイサービスの子供から寄贈された作品を飾りつけ、廊下やリビングに季節の手作り作品や写真を掲示して温かみを感じられる。職員は利用者の嫌う光の眩しさや寒暖の好みを熟知し室内の照度や温湿度を加減し環境を整えている。管理者と職員の関係が良好でチームワークの良い職場環境であり、ここ数年は職員の退職が見られない。職員の定着率が高い事も利用者が安心して暮らせることの要因になっており、家族からも信頼を得ている。課題分析アセスメント概要表で利用者に変化のあったときに随時更新し計画作成時に活用している。介護計画を家族へ郵送する際は別紙に手書きで変更箇所をわかりやすく説明して送っており、内容を理解しやすい配慮をしている。災害訓練を例年3回行い訓練を重ね不測の事態への対応力を高めている。利用者が安心して自由な暮らしができるよう、優しく見守り寄り添うという信念で職員が日々介護に専念している事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念とケア理念がある。共用部分の見やすい場所に掲示しており、時に理念を唱和し共有して実践に繋げている。	基本理念とケア理念を事業所内3か所の見やすい場所に掲示し、年間や月間の目標を定め職員が共有の認識として理念に沿った介護を行っている。ユニット会議で理念を確認する機会や、職員の採用時にも詳しく説明をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	数名の入居者様が、町内会の運動会と近隣の保育園の運動会を見学された。	町内や地域の情報を民生委員や地域住民から得ている。今年度も小学校の資源回収に協力しており、地域とは日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症のひとの理解や支援方法を地域の人々に向けて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの行事報告やサービスの実際について話し合いそこでの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員、地域包括支援センター、地域住民、家族と管理者が集い2か月ごとに開催し、議事録に入居状況や行事、研修、事故報告、訓練内容を明記し、参加者からの意見や感想も記載している。議事録は家族を含め関係者に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各手続きは直接区役所に出向いたり、電話連絡をして事業所の実情を伝えている。	主に管理者が手続等で関連機関に電話とメールで申請、報告等の手続きを行っている。オムツサービスや空室情報の他、保護課からの依頼で対象者の生活状況の確認などに協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを整備している。身体拘束禁止行為11項目について掲示し年2回の内部研修を行っている。また、3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催している。防犯の為玄関を施錠しているが、入居者様の中から開けることができる。	「身体拘束適正化のための指針」に基づき、3か月ごとの委員会と「高齢者虐待と身体拘束について」の研修を行い職員全員が研修報告を提出している。今年度末までに更に研修予定がある。防犯目的のため玄関の施錠はしているが、外出希望があれば応えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入浴や更衣時など皮膚の観察を怠らず虐待が見過ごされることが無いように注意している。また年2回内部研修を行い、虐待防止検討委員会を開催している。		

とらいあぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を設けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成担当者2名で立ち合い、十分な時間を取り対象の入居者様、ご家族の不安を払拭し、理解を頂いた上で契約の締結をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談BOXの設置、文章や電話でのやりとりで寄せられた意見、要望を運営に反映させている。また、意見等を出せる関係構築を大切にしている。	家族の訪問時や電話で暮らし方や身体状況を説明し、毎月の個別通信でも様子をお知らせしている。家族意見は管理日誌に記録している。利用者の誕生日に食べたい物を確認し提供したり、日々の会話で出た利用者の希望は可能な限り実現している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、毎日の申し送り、日常業務内で職員より意見があった場合は反映している。	日々の業務で出た話や個別面談で職員の要望を確認したうえで業務改善を行い、職員が働きやすい職場環境を整えている。出された提案で、早番遅番の業務を見直し利用者と希望の散歩時間が確保が出来た実例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の実施、職員より相談があった際は都度対応している。日頃の業務に対する助言、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に社内研修を行っている。コロナ禍以降、職員にはオンラインの研修の案内を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以降、同業者との交流は減少しているが、仕事を通じ得られたものをサービスの質向上の為に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時に様々な聞き取りはもちろん、電話の相談などでも困りごとや要望など入居者様の不安を払拭できるよう耳を傾け関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、入居者様の思いや言葉にできないこと、ご家族だからこそその思いをしっかりと聞き、受け止める。信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居にあたり、何が一番のニーズなのかを一人ひとり見極めケアプランを作成を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を見極め、できることは行って頂きやりがいや役割を感じて頂く。そのための支援をさせて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信で一人ひとりの様子をお伝えし3か月に一度はケアプランの見直しとともに、より細かい心身の状態を報告している。連携を密にとりご家族にも共に入居者様ご本人を支えて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、制限時間を設けているが居室や玄関での面会をしていただいている。コロナ禍より継続してテレビ電話の活用をしている。	家族と話したい場合は顔が見えるビデオ通話の支援や本の好きな利用者へ誕生日プレゼントに本を渡している。家族と通院の帰りに外食や買い物をしている利用者もいる。今までの暮らし方や馴染みの関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格、認知症の状態を把握して入居者様同士が心地よく安心して生活を送れるよう、職員はサポートさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族や転出先からの問い合わせ等に対応し、相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居後にも、ご本人・ご家族からホームでの生活に対する意向を聞き取り、把握に努めている。困難時もその人らしさと尊厳をもとに検討している。	日々の会話から利用者の希望や思いの把握に努めている。また、課題分析アセスメント概要表に記録し、日常生活動作等記入表に変化のあったときは随時更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りとセンター方式を活用し、これまでのサービス利用に関しては担当のケアマネ・MSWから情報提供を受けて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を通して小さな変化を見落とすことのないようにしている。介護記録の記入、情報の共有をし職員は同じ認識のもとケアにあたっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のユニット会議と、3か月に一度の担当職員とケアマネでのモニタリングからのケアカンファレンスで、現状に沿ったケアプランの作成を行っている。	本人の状態や希望、家族の要望を確認し計画に盛り込んだケアプランを3か月ごとに作成しており、介護計画を家族へ郵送する際は、どの個所が計画変更になったのかを書いた便せんを介護計画に添付し送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録ケアプラン実施表を活用し、モニタリングへと繋げている。また毎朝申し送りでは小さな変化にも即座に対応し実践に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のみならず、さまざまな事情を抱える家族にも配慮し、グループホームとしての役割から逸脱しないようにしつつも、その都度問題解決に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や町内活動への参加も行っているが、通年のコロナの感染状況を考えると、対策との兼ね合いが難しいところである。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度、かかりつけ医の往診を実施している。これ以外に専門医療機関の受診が必要であればかかりつけ医の支援のもと、ホームとご家族の間で連絡調整を行っている。	毎週、協力医療機関の往診と訪問看護師が利用者の健康管理をしており、他科受診も家族対応が難しい場合は事業所で同行している、また、受診結果は家族へ伝え医療情報は共有している。	

とらいあんぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護で、情報共有をし、アドバイスを受けてケアを行っている。また緊急時にも訪問看護ステーションでの対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より、先方の相談員と連携をし、早期退院を目指している。入院中の現状を把握して退院後もスムーズにホームでの生活に戻れるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に重度化した場合などの在り方について話をさせて頂き、そのような状況にさしかかれば、入居者様本人、ご家族の意向を伺いつつ方針を定め最後まで支援を行っている。	「重度化した場合の対応指針」を入居前に説明し同意を得ている。往診医の判断等により事業所での生活が困難になってきた場合は本人と家族の意向を確認し適切な移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には管理者の指示のもと、適切に対応できるように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害を想定した避難訓練を定期的実施している。平素の訓練より近隣住民の方々に参加して頂き、災害時には活かせるようにしている。災害対策計画、業務継続計画も設定している。	事業継続計画に基づき災害訓練を実施している。今年度は5月に夜間想定火災訓練と9月に水害訓練を行い、11月に地震から火災になった想定で訓練を行う計画がある。災害備蓄品も事業所内に確保してある。	事業継続計画に避難先が明記されているが、実際に避難した場合に想定される避難生活を検討し準備すること、地震や水害以外の自然災害を想定した訓練も計画することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢で認知症である皆様の尊厳を保持し、礼節を弁えた対応を行っている。虐待等の研修も継続し初心を忘れないよう努めている。	職員は不適切ケアについて研修を行い、全員が研修報告書を提出している。職員は高齢者の尊厳を守り優しく寄り添い、敬う気持ちで接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の思いを表すことが困難な方も多く、聞き取り以外にも職員からのアプローチで皆様の思いを汲み取り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を基本にしつつも職員本位になることなくその方なりの生活を送れるようにご本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向や好みが反映できるように、また、身だしなみが整うように助言やお手伝いしている。		

とらいあぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下状態・介助の必要の有無などにより、個人に適した食事の形態、形状での提供。また月1回ホーム内で開催している食事会では季節を感じて頂けるような食事を提供している。入居者様にテーブルを拭いて頂く等のお手伝いもして頂いている。	食事は栄養バランスがしっかりと考えられた調理済み副菜が届いている。米飯と汁物を調理し彩りよく盛り付けている。敬老会は出前で生ちらしセットや、誕生日は本人の食べたいものを聞き取り、旬の果物も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注献立の為栄養バランスは配慮されている。毎食、食事は記録に残している。飲水は促しやカップを支える程度の介助で摂取して頂ける。水分量も記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアを行っている。個人にあった道具を使用し、職員の介助で仕上げし、口腔内の清潔を保っている。義歯装着している方は1日1回洗浄剤に漬けて置きをしている。訪問歯科で歯の状態を見て頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄状況に合わせてパットやリハビリパンツを選択している。付き添いや見守り、拭き取りの仕上げや定時誘導などの支援を行っている。	利用者の状況に応じて排泄を記録して、適切な声かけでトイレでの排泄支援をしている。時間帯に応じて排泄用品の種類を変更したり、自分でできる行為を行ってもらい自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	申し送りで排泄状況を共有している。下剤の調整やトイレと一緒にいらせて頂き腹圧をかけるなどして、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に順番で入浴を行っている。入浴される入居者様はゆっくり湯舟に浸かって頂く。あがるタイミングはご本人のお好みでお任せしているが、場合によっては職員の声かけで上がって頂くこともある。	毎日午後2名～3名が入浴をしている。状態が重い場合は湯船に湯を張った暖かな浴室で足浴をしながらシャワー浴で対応している。冬季は入浴剤で香りを楽しんでいる。入浴後はスポーツドリンクで水分補給をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力的な面を考慮し、昼食後に午睡してもらっている。シーツやリネン交換、布団乾燥機を使用して、寝具の清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋などは個人ファイルに保管している。変更があれば連絡ノートで情報を共有している。与薬は個人にあった方法で行い何回かに分けて行ったり、必要に応じてとろみを使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自身の洗濯物を畳んで頂いたり、可能な方にはタオルや他入居者様の洗濯物を畳んで頂くこともある。集団のレクでは体操や合唱、カラオケを行っている。個人では読書やパズルをやって楽しんで頂いている。		

とらいあんぐる太陽

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はホームの周りを一周散歩したり、ホーム前に出したベンチで座って談話するなど外気浴を行っている。外出レクは感染症の影響で控えている。	感染症対策以前より外出の頻度は減っているが、事業所の周辺を散歩したり、玄関前のベンチに座りシャボン玉を楽しんだり写真撮影をしている。家族と受診後に買い物や食事をして戻る利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理することが難しい入居者様がほとんどなので、お金はご家庭に管理して頂いている。必要なものがあれば管理者が買い物に行き、入居者様にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があれば入居者様と通話することもある。入居者様宛に届いた手紙は入居者様本人にお渡ししている。ホーム用タブレットでテレビ電話を行うこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はカーテンを開けて陽が入るように調整している。窓の開閉を行い、喚起や温度、湿度を調整している。季節によって廊下やホールの掲示物を変更し、季節感を感じて頂き、日常風景の写真なども掲示している。	利用者が好みの席で過ごす居間は畳敷きの小上りのスペースもありパネルヒーターで暖かく加湿空気清浄器や、夏場はエアコンを利用し快適に過ごせる空間となっている。利用者が気になる屋外の光をカーテンで調整し過ごしやすくしている。浴室も手すりを追加で設置し脱衣場も暖かく屋内の温度差が無いよう安全に配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はホールで過ごして頂いている。同じテーブルの気の合う入居者様と談笑したり自席にてTVを見て過ごしている。ソファでゆっくり過ごされる入居者様もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に私物を持ち込まれている。必要に応じてご家族と連絡を取り、衣類を持ってきてもらったり買い足したりしている。ゆるみやほつれがあれば職員が直し居室の担当者が衣替えを行っている。	あらかじめ吊戸棚と照明器具が備えられている居室は自宅で使っていた馴染みの家具やテレビ、椅子が持ち込まれ、家族の写真やカレンダーを掲示して自分らしく過ごせる部屋となっている。家具の配置は安全に配慮した設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはネームプレート、共有スペースの自席には名前が記されている。職員は入居者様に寄り添い、ご本人の意思をできるだけ尊重し必要に応じてフォローするよう心がけている。		

目標達成計画

事業所名 とらいあぐる太陽

作成日: 令和 6年 12月 13日

市町村受理日: 令和 6年 12月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	現在の災害対策を更に強化する。	避難生活を想定し、必要な準備をする。	実際の避難生活を検討する為、避難先を下見し現場の様子を確認する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。